

受験生としての自覚を持って受験勉強に臨もう

—自覚を持てば、自然と学習時間は長くなり、学習方法も工夫するようになる—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 地球温暖化のためか、この7月は本当に暑い日が続きますので、どうかお身体に気を付けて頑張ってくださいと思います。この番組は受験生の方のための番組でもありますので、高校入試や大学入試などの入学試験、いろいろな資格試験を受ける受験生の方に今日は少しアドバイスをさせていただきます。受験生がお受けになる試験にはいろいろな試験がありますが、一番大事なことは自分は受験生であるという自覚を持って勉強することです。例えばそれはどのようなことかと言いますと、自分は来年の1月・2月・3月に高校入試や大学入試などのいろいろな試験を受ける「受験生であるという自覚」を持つことです。受験生は受験生としての自覚を持って毎日を過ごすことが大切です。
3. 受験生にとって最も大切なことは、自分は受験生だという自覚を持って勉強すること、毎日を過ごすことです。自覚を持って勉強するときが一番大事なことは、高校入試であればどこの高校の試験を受けるのか、大学入試であればどこの大学の試験を受けるのか受験する学校名を明確にすることです。できれば〇〇高校の〇〇学科、〇〇大学の〇〇学部というように、高校名と学科名、大学名と学部学科名を明確にしてから試験勉強に臨むとよいと思います。まだ決っていない人はどのようにして受験する高校や学科、大学や学部学科を決めたらよいか。これはちょっと難しい話かもしれませんが、その高校を卒業してから、また、その大学を卒業してからどんなことをやりたいのかを考える必要があります。
4. 例えば、私はどのように受験する高校や大学を決めたのかを御参考までにお話します。私は小学校4年生の担任の先生から、小学校4年生になれば新聞に書いてあることはいくらわかるのだから「新聞を読みなさい」と指導していただいたので、小学校4年生から家でとっている毎日新聞という新聞を読んでいました。そのお陰でいろいろと勉強になりました。中学校2年生ぐらいのときには何と「将来は弁護士になりたい」「将来は外交官になりたい」と思い始めました。何のために弁護士になるのか・何のために外交官になるのかと言いますと、弁護士や外交官の本を読んでいるうちに、もしかしたら弁護士になれば人権の空白地帯を少しでもなくせるのではないかと、外交官に

なれば戦争をしない平和な国をつくることができるのではないかと、もっと言えば日本の独立を守ることができるのではないかと思うに至ったからです。高校生のころは、新聞も読みましたが、岩波書店の本が好きで岩波新書や岩波文庫ばかり毎週1冊くらいずつ読んでいました。その当時の高校生はよく本を読んでいました。

5. 小学生や中学生、高校生でも新聞や本を読んだり、いろいろな人の話を聞いたりしますと、このようなことを考えるようになります。ですから皆さんも、何のために高校や大学に行くのか・卒業したらどのような進路をとるのか・その進路をとった場合は何のために仕事をするのかということなどを考えていただくと、「そうか、だから今はこの勉強をしなければいけない」ということになり、自覚が深まります。新聞や本を読み、ラジオやテレビでやっている素晴らしい番組を見たり聴いたりしていただくと、いろいろなことが勉強になります。現在出されている本や新聞、放送は以前と比べて非常にわかりやすく、また、内容も多様性に富み、充実しています。このようにして自分自身で学校の教科書以外のことも幅広く勉強し、社会に出てどのような仕事や活動、生き方をしたいのかということをも自分で考える、自分で考えたことをまず頭に置いて、それから高校や大学の進学先を決めていただければと思います。これが受験生としての自覚をするときに一番大事なことです。

6. この番組でも何回かお話させていただきましたが、自分は受験生であるという受験生としての自覚が深まれば深まるほど、受験生としての自覚を持って学習すればするほど、学ぶべきことがわかってきて、自然と学習時間が長くなります。そして、どんなに長時間勉強しても時間が足りなくなり、眠る時間以外はすべて勉強に当てても何とも思わないようになります。また、限られた時間をどう効果的に勉強をしたらよいか、勉強の仕方も工夫するようになります。やるべきことは山ほどあり、また、「短い時間しか勉強できないのであれば、このような工夫をしながら勉強すればいいのかな」と考えるようになります。自分自身で勉強時間を長くする工夫をし、学習方法を工夫するようになります。受験生としての自覚を強く持てば持つほど、今ここでしなければならぬことがはっきりするので、そのようなことを考えつくわけですね。ですから、受験生は受験生としての自覚を持って勉強することを心からお願いします。

7. ところで、よく考えれば「学習」という漢字には2つの意味があります。「学」の学(まな)ぶ、「習」の習(なら)うです。学(まな)ぶというのは、そうか、これはこういうことなのかと物事の本質がよくわかること、「理解」することだと私は思います。机に向かって一所懸命に勉強したり人の話を熱心に聞いたりすることでできます。受験勉強で大事なものは「習う」のほうです。一度理解したり学んだりしたことを、何度も何度も反復練習をして身に付ける作業を行うことがとても大切です。これを怠りますと、いくら先生の授業が、ああ、これはこういうことなのかとよくわかっていても、つまり「理解」しても、人間はすぐに忘れてしまうので学力は身に付きません。自分ではわかっていても、つまり理解はしていてもそれが身に付いていなければ得点には反映されない、テストで点数は取れないのです。ですから、一度よくわかったこと、理解したことでも繰り返し繰り返し練習し

正確に身に付けることが大事です。一度理解したことを身に付けるための反復練習の中身で一番簡単なのは、「音読練習」、スラスラ読めるようになるまで声を出して読むことです。また、「書き取り練習」、正確に書けるようになるまで書く練習が大事です。そして、一つの問題について、問題を見た瞬間にパッ、パッ、パッと正確な答えが出るくらいまで計算練習や問題練習をすることです。

「練習は不可能を可能にする」ということばがあるように、「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」は、不可能を可能にします。テストで点数がどんどん取れるようになり、成績がどんどん上がりますので、是非やっていただければと思います。

8. それから、受験勉強で大事なことは、自分の未来は自分で切り開くという考えです。受験勉強だけは、やった分だけ成果が出るものです。本当に報われます。勉強すればするほど点数が上がります。学力が身に付きます。受験勉強をすると、自分の未来は自分で切り開く、自分の身は自分で助ける(自助努力)ということがよくわかってきます。最終的には、受験勉強は自己責任で、自分で行ったことの責任は自分で取るものだという考えで行うものだということもわかってきます。これは、人生の基本です。ですから、自己責任・自助努力・自分の未来は自分で切り開く。人の人生の基本を身に付けるためにも、受験勉強に真正面から取り組んでももらいたいと思います。

9. 結果的には、私の場合は勉強の仕方が悪かったのか、勉強時間が少なかったのか、根本的には受験生としての自覚が不足していたために、外交官にも弁護士にもなれませんでした。しかし、ずっと遊んでいたわけではありませんので、そこで勉強したことはいくらか理解したり身に付いたりしていて、今の自分の人生にとって非常に役に立っています。学習塾をやる上でも非常に役に立っています。いろいろな経済団体などで活動するときにも役に立っています。また、外交官にはなれませんでした。ユネスコ活動などをやらせていただいていますので、違う立場で今やれることをやらせていただく上で非常に役に立っています。素晴らしい先生や励まし合う友達も何人かはできました。試験に落ちてしまっても役に立つことはたくさんありますので、是非頑張って受験勉強をしていただきたいと思います。

10. 今日は、受験勉強で一番大事なことは自覚を持って勉強すること、高校入試・大学入試についても同じで、卒業後に何をするのかを考えながら勉強すると素晴らしい勉強になるというお話をさせていただきました。皆様も是非お考えください。

— 2013 年 10 月 12 日加筆・訂正、林明夫 —